

高等学校における通級による指導をどう考えるか

—生徒の実態に応じた必要かつ効果的な支援の在り方を探る—

企画者・司会者	若林上総	(国立特別支援教育総合研究所)
話題提供者	笹森洋樹	(国立特別支援教育総合研究所)
	三島節子	(NPO 法人フトゥーロ)
	近藤幸男	(横浜市立鴨志田中学校)
指定討論者	井上秀和	(宮崎県教育委員会)
	山崎真理子	(島根県教育委員会)
	笹谷幸司	(神奈川県立足柄高等学校)

KEY WORDS: 高等学校 通級による指導 自立活動

【企画趣旨】

特殊教育から特別支援教育へ転換が図られて以来 10 年が経過した中、高等学校では、発達障害のある生徒への支援（文部科学省 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012）、キャリア教育の充実（文部科学省, 2012, 2013）など、特別支援教育に関する取組が進められてきた。特に、体制面の充実のためには、関係機関との連携、専門家からの支援、教員の意識改革、専門性の向上、といった取組があった。発達障害のある一人一人の生徒に対しても、個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成、活用した事例の蓄積が進み、進路指導や自己理解を促す指導の充実が図られるなど、取り組みには一定の成果がみられた。

現在では、高等学校段階において障害のある生徒が自立し社会参加を図るための新たな取り組みとして、「特別な教育課程」を編成し、自立活動を取り入れた指導の研究が行われている（文部科学省, 2014, 2015, 2016）。指定を受けた全国のモデル校は、これまでの高等学校の取り組みを基にしながら、発達障害のある生徒の適応に必要なソーシャルスキル・ライフスキル・アカデミックスキルの指導を中心に指導内容の開発を進めている。加えて、自立活動を開始するまでの合意形成の過程、その際のアセスメント、特別の教育課程を編成・実施する際の既存の教育課程との整合性、指導の評価など、多様な観点からの検討を進めている。その成果や課題が次第に明らかとなってきており、平成 30 年度には通級による指導の制度化として結実し、高等学校における特別支援教育は新たな展開を迎えることとなる。

以上を踏まえ、本シンポジウムでは、高等学校における特別支援教育を展望し、これまでの成果や課題を踏まえつつ高等学校が新たにどのような特別支援教育の展開を図るか、そのために高等学校における通級による指導をどう考えるか、といったことを議論する。議論を通じ、高等学校における通級による指導の導入期の課題や、自立活動の指導の充実、さらに新たな展開を迎える高等学校における特別支援教育の在り方をフロアと議論し、共有することが期待される。

【話題提供者の趣旨】

笹森洋樹氏（国立特別支援教育総合研究所）

国立特別支援教育総合研究所では、高等学校における通級による指導の制度化に向けて、各都道府県における準備状況を把握するための調査を文部科学省初等中等教育局特別支援教育課と共同して実施した。結果からは、通級による指導により期待される成果として「個に応じた相談、指導・支援が受けられるようになる」ことを見込んでいる状況が確認された。一方、制度導入に当たっての課題として、

特別の教育課程の編成や学習評価、単位認定など、制度の運用に関することに加え、対象となる生徒の実態把握、指導に当たる教員の専門性の確保等が挙げられた。それらも踏まえながら、これまでも高等学校において取り組まれた指導とどう有機的に関連させ、制度導入を考えれば良いか研究成果から言及する。

三島節子氏（NPO 法人フトゥーロ）

NPO 法人フトゥーロは、横浜市にある相談、指導機関である。“障害”とされる部分は軽度でも、周囲の適切な理解と対応が必要な方たちを対象とし、保護者への相談、子どもへの直接の指導に加え、幼稚園・保育所、学校との連携を進めている。中高の生徒の相談事例からは、高等学校進学、入学後の学校適応、卒業後の進路など、多様なニーズへの対応が求められている。三島氏には、相談を通じて高等学校への進学を希望する生徒、入学後の適応に困難を生じている生徒、卒業後の社会生活を営む上で課題のある生徒などの事例を通して、思春期を意識した通級による指導に求められることについて言及してもらう。

近藤幸男氏（横浜市立鴨志田中学校）

鴨志田中学校には情緒障害、難聴・言語障害の通級指導教室が設置されている。近藤氏は、発達障害のある生徒に対して個々の特性に応じた自立活動を中心とした指導を行っている。生徒の実態は多様化しており、進路選択にも様々な課題がある。進路指導や卒業後の追指導を通して高等学校とのかかわりを多く持つ中学校の通級担当の立場から、高等学校における通級による指導で必要とされる指導内容等について、期待していることを言及してもらう。

【指定討論者の趣旨】

指定討論者には、各地域で通級の立ち上げにかかわる宮崎県教育委員会の井上氏、島根県教育委員会の山崎氏及び、文部科学省調査研究協力者であり、現在知的障害のある生徒が高校教育を受ける機会を拡大するため神奈川県教育委員会が指定したインクルーシブ教育実践推進校校長である笹谷氏の登壇を得る。高等学校における特別支援教育、インクルーシブ教育システムという視点も踏まえ、多様化している生徒の実態に応じた高等学校における通級による指導の制度や指導内容等の在り方について、平成 30 年度からの制度導入に向けた 3 つの自治体の準備状況に触れてもらいながら、その実現可能性や解決すべき課題について、提供された話題を中心に議論する。

(WAKABAYASHI Kazusa, SASAMORI Hiroki, MISHIMA Setsuko, KONDO Yukio, INOUE Hidekazu, YAMAZAKI Mariko, SASAYA Kouji)